

ON THE KEYBOARD

By Sanjeev Sinha

No. 2



サンジーヴ・シンハ

1973年インド・ラジャスターン州生まれ。インド工科大学で物理学修士課程と金融の修士課程を修了。人工知能研究のため1996年に来日。証券会社の数社に勤務後、現在、ブライスウォーターハウスクーパース株式会社ディレクターとして、日本とインドのビジネスの橋渡しに従事。英・日・ヒンディー語を駆使して、様々な異文化交流に尽力している。主な著書に「すごいインドーなぜグローバル人材が輩出するのか」（新潮新書）がある。

The random traveler: Tokyo to Hokkaido and back on a whim

A few years back, I got up on a Saturday morning without any specific plans for the weekend. I randomly rode my bicycle to Tokyo Station where I hit on the idea of going to a place I had never been.

The Tohoku Shinkansen had recently been extended from Hachinohe to Shin-Aomori Station. The name Hachinohe sounded quite appealing to me and I got on the bullet train on the spot.

After a three-hour, 631-kilometer ride, I arrived at Hachinohe Station at noon. While hanging around, I stumbled upon a rental car office and asked for suggestions about a scenic driving route. The man at the office told me that there was a beautiful lake named Towada about 75 kilometers away.

I couldn't resist the temptation to take the wheel and hit the road toward the lake. After seeing the lake, I drove further, to the north-

ernmost town of Honshu and stayed overnight.

As Hokkaido is just across a strait from the place I was staying, I took the plunge and went to Hakodate by ferry the next morning. Because I was born in a desert area in India, the four-hour ocean trip was quite an experience.

However, the fact that Monday was approaching made me uneasy. I cut my stay in Hakodate short and took a train to Sapporo

before flying back to Tokyo. The almost 1,500-kilometer journey was hectic and tiring, but it was not bad at all for a completely unplanned weekend.



紙面から音声

このコーナーは、スマホやタブレットで英文音声を読みます。無料で「朝日コネクト」をインストール。起動したら、日付選択で発行日（10月11日）に合わせ、英文の先頭にかざしてください。ダブルタップで全画面表示。詳細は <http://t.asahi.com/connect> へ。



App Store



Google play

朝日ウィークリーのウェブサイト
(<http://www.asahi.com/english/weekly>)
でも、音声ファイルを公開しています。

random (見出しから) 思いっ きの、行き当たりば ったりの	れで hit on ～をふと思いついた、 ～が頭に浮かんだ	その場で、即座に hang(ing) around ぶらぶらする	た、～に出くわした resist...to ～したい気持ちをこ らえる	運転する hit the road (米俗語で) 出発する	took(take)...went 思いきって行った
on a whim (見出しから) 気まぐ	on the spot	stumble(d) upon たまたま～を見つ	take the wheel	strait 海峡	hectic 慌ただしい

対訳 東京から北海道へ 思いつきの旅

数年前になりますが、ある土曜日の朝、週末の決まった予定もなく起床しました。思いつくままに自転車で東京駅まで行き、そこで今まで行ったことのない所に行こうと、ふと思いついたのです。

東北新幹線が、八戸から新青森駅まで延びたばかりでした。八戸という響きがとても魅力的に聞こえたので、私はその場で新幹線に乗り込んだのです。

3時間にわたる631キロの列車の旅を経て、正午に八戸駅に到着しました。ぶらぶらしていると、レンタカーの営業所を偶然見つけました。そこで、眺めのよいドライブコースはないかと聞いてみました。係の人によると、約75キロ行った所に、十和田という名前の美しい湖があるとのことでした。

私は、ハンドルを握って湖に向けて出発したい気持ちを、抑えることができま

せんでした。湖を見てから、さらに本州の最北端の町まで車を走らせ、そこに泊まりました。

泊まった場所から海峡を隔てたところは、もう北海道だったので、翌朝思いきってフェリーで函館まで行ってみました。インドの砂漠地帯で生まれた私にとって、4時間の航海はなかなかの経験でした。

ところが、月曜日が近づいているという現実気づき、不安になりました。そこで函館の滞在を切りあげ、列車で札幌に向かい、飛行機で東京に戻ったのです。

ほぼ1500キロに及ぶ旅は慌ただしく、疲れましたが、まったく無計画の週末にしては、全然悪くなかったと思います。

(訳 井手子)



芸術とは...

[左コマから右へ]

- 1 ...
- 2 ...
- 3 いま並木を描いてるところ。描いたら緑色に塗るんだ／芸術になってないわ
- 4 並んだ木の前には湖を描くよ
- 5 まだ芸術とは言えないわねえ／それでね、湖のそばにはちっちゃな丸太小屋を描こうと思ってるんだ
- 6 そんなじゃ十分じゃないのよ...まず滝が必要よ、それと夕焼けの空...お日さまが、オレンジ色っぽい感じで沈んでいくところを描けばいいわ。空には赤い筋を入れるのよ、それから、煙突からは煙が上がっているの
- 7 そうね、もっとたくさん木を描かなきゃ...森にするのよ...滝のそばには、立っているシカを描いて...そうそう、そんな感じ...
- 8 これで、木と、湖でしょ、丸太小屋に、滝とシカ、そして夕焼け空がちゃんとあるわね...
- 9 これこそ芸術よ!
- 10 ああいう人たちに本物を理解させるのには、時には部外者の助言が必要ね

(訳: 夕)